

防災研究所

I	研究水準		研究 23-2
II	質の向上度		研究 23-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、教員一名当たりの査読付き発表論文数 3.1 件／年で、招待講演・特別講演も 39 件と活発に行われており、また多くの教員に受賞歴があり、相応の期待に応えている。また、世界から国際共同研究のリーダーとしての役割が期待されている点について、アジア、欧州、米国、アフリカと幅広い地域にわたり、11 機関との国際交流協定を締結しており、相応の期待に応えている。研究資金の獲得状況については、半数の教員が研究代表者で科学研究費補助金を獲得して活動しており、民間との共同研究や受託研究も活発であることなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「共同利用・共同研究の実施状況」のうち、防災研究所が募集して実施した共同研究は 20 件（平成 19 年度）あり、全国の防災研究拠点として相応の期待に応えている。共同利用については、70 を超える共同利用の機器類が活用されており、相応の期待に応えている。さらに、国・地方自治体からの期待については、収集した資料を行政側が利用可能な体制を取っていることなどは、相応な成果であることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、防災研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、防災研究所が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、防災に関する多様な研究分野で、国内外で学術賞を受賞するなど、研究拠点として相応の期待に応えている。社会、経済、文化面では、卓越した研究業績として、例えば、RI コーン貫入試験装置に関する論文は、ASTM（American Society for Testing and Materials）論文賞を受賞し、また装置はシンガポール政府により公式採用され、さらに韓国や日本の民間企業も導入し、主として沿岸域の大規模都

市開発に伴う地盤の品質管理ツールとして社会に貢献している。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、防災研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、防災研究所が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。